

あうる

Treasure every meeting as it's chance
to happen is only once in a life time.

北海道歴史秘話 26

文化施設が集積する
札幌市民のオアシス、中島公園。
水と緑あふれる都心の公園には
どんな歴史があるのだろうか？

市民のオアシス

豊かな緑と水に恵まれた札幌市民憩いの場が中島公園だ。

札幌市の中心部にありながら、鴨たちがのんびりと池を泳ぎ、木々の緑がその池に映りこんでいる風景は、とても穏やかで、街の喧騒を忘れさせてくれる。

秋には、南九条通りに面した入り口から始まるイチョウ並木が美しいプロムナードとなり、落ち葉が公園の歩道に黄色い絨毯を敷き詰める。また、公園の西、鴨々川沿いのシダレヤナギも、風情豊かな並木となっている。

中島公園は、この鴨々川の流れをもとに造られた公園である。

この公園の発端は、明治七（一八七四）年に鴨々川に水門が設けられ、貯木場がつくられたことに始まる。豊平川の上流、定山溪で伐採した木材をいったんここに蓄え、大友堀（現在の創成川）にあった製材所に流すためだった。その後、貯木場は次第に使われなくなり、荒廃していった。この貯木場が、現在の菖蒲池である。

中島公園は当初、単に「中島」と称し、「遊園地」と呼ばれていた。この「中島」という名称は、かつて鴨々川と豊平川本流に挟まれた地域が鴨々中島だったことから名付けられた。しかし、遊園地と一口にいうが、これは今の中島公園だけを指したものではない。昔は薄野遊郭を南に出れば、そこから先が遊園地と呼ばれる場所で、山鼻の屯田兵村に属していた。

元は山鼻屯田兵村の土地

そもそも当時の札幌のお役人さんたちには、公園を南方面に造成しようという考え



明治5年頃の創成川の貯木場（元右衛門堀）
（「札幌本陣ヨリ南山ヲ望ム／田本研造（函館）」、北海道大学附属図書館蔵）

はなかった。公園地に予定されていたのは今の北区にある偕楽園^{かいらく}で、明治十六年頃までは、遊園的施設のほとんどが北に集約されていたという。

当時の中島は、「鴨々中島」とか「元右衛門堀の中島」とか呼ばれ、捨てて顧みられなかった場所だった。そこで山鼻の屯田兵たちが、「ここは将来見込みのある土地だから、我々の手で開拓しておこう」ということになり、それを時の札幌県令に伝えた。慌てたのは札幌のお役人さんたち。「やはり将来の公園地としては、北よりもこちらのほうがいいようだ。ちよつと待ってくれ」と泣きつき、屯田兵村から譲ってもらった。それが今の中島公園とその一帯であった。

中島遊園地の施設

明治二十（一八八七）年から、木を伐り、

藪を開き、中島遊園地の造成が始まった。この年には園内に北海道物産陳列場が造られ、道内の特産品を集めた北海道物産共進会が開催された。

以来、産・官主催のさまざまな博覧会が催され、中島遊園地は、北海道の物産・人情報の集積地となっていた。物産陳列場の南には、お雇い外国人エドウィン・ダン設計の競馬場も新設された。

さらに人寄せのため、料亭・茶屋など遊興施設を営む者に、積極的に土地を貸し付けた。

明治二十一年には、今の人形劇場「こぐま座」の裏手あたりに二層の料亭「大中正」が建設され、中島遊園地は宴会のできる場所にもなった。オープンの日には、景気づけに花火を数十本打ち上げた。これが札幌初の打ち上げ花火である。

池にはウグイを入れて釣り堀とし、明治三十年頃には貸しボートも登場した。大正に入ると池の中島まで橋が架けられ、そこに白亜のライオン食堂もできた。

薄野遊郭にあった料亭「西の宮」の支店をはじめ、日吉亭・大正亭・臨池亭などの料亭や団子茶屋なども池の北側周辺に建てられた。東岸にはやがて農業館・機械館・音楽堂が並び、岡田花園という様々な花卉^{かき}を植えた三町歩の花の名所もあった。花園はその後、公園に取り込まれて姿を消してしまうが、現在札幌市天文台のある山に岡田山という名を残している。

遊園地から公園に

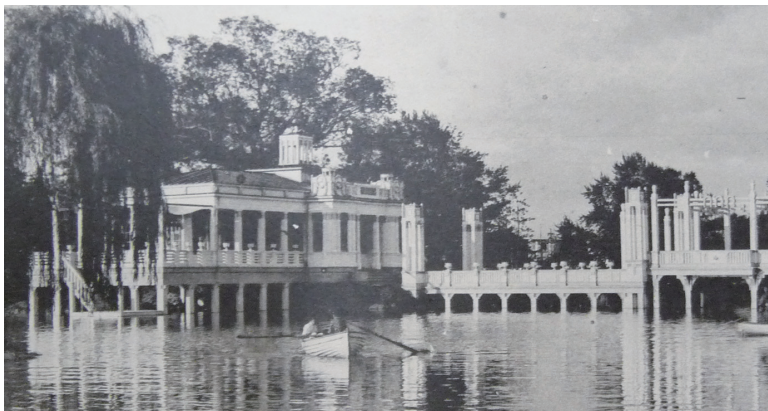
明治四十（一九〇七）年、札幌区は当時

造園の権威であった長岡安平を東京市より招き、中島公園の整備計画を依頼。このとき長岡は、大通公園と円山公園についても基本設計を行っている。

昭和三（一九二八）年になると園内にNHKのラジオ放送局が開局し、北海道のラジオ放送が中島公園からスタートした。

戦後の昭和二十四（一九四九）年には、アメリカ進駐軍から払い下げられた兵舎を利用した、公立としては全国初の児童館も開館している。

このように明治時代から、博覧会・競馬・花火大会など、札幌の新しい文化をたくさん生み出してきた公園、それが中島公園なのである。



大正7年の開道五十年記念北海道博覧会第一会場となった中島公園に建てられた迎賓館（後のライオン食堂）
（北海道大学附属図書館蔵『開道五十年記念北海道博覧会名誉記念写真帖』より転載）

捨て去られた貯木場一帯が
整備され、北海道の文化を
発信する博覧会が開かれる
人が集い賑わう場所になった。

あつろの杜

北海学園大学文学部教授・歌人
田中 綾さん

Interview

書評家であり歌人、
そして北海学園大学人文
学部教授でもある田中綾さん。
「短歌」は紙と鉛筆さえあれば
できる癒しの道具という田
中さんのお話です。

きっかけ

元々物書きになりたいと、高校の頃から思っていました。国語の成績はそんなに良くなかった。それがなぜ短歌なのかというと、二十歳ぐらいの時に、札幌で東京下谷の法昌寺住職・福島泰樹さんの「短歌絶叫コンサート」を見に行って、短歌というよりも、短歌絶叫ライブの迫力に「福島泰樹！」となってしまつて。

当時福島さんは「早稲田文学」の選考委員でしたので、とにかく福島さんに自分の短歌を読んでもらいたくて、「早稲田文学」に大学三年と四年の時、応募したんです。四年生の時の作品が佳作になり、福島さんから電話いただきました。それが短歌を始めたきっかけです。私は晩年の石川啄木の思想に共鳴しますが、影響を受けたのは、やはり福島泰樹さんですね。

恩師

北海学園大学初代人文学部長

短歌は日本語話者の癒やしの道具



田中 綾
たなか あや

北海学園大学文学部教授・書評家。専門は日本近現代文学(特に詩歌史)。博士(文学)(北海学園大学)。札幌市出身。北海道大学文学部言語学専攻卒業。1991年の第8回早稲田文学新人賞に短歌「人間呼称」で佳作に選ばれる。1995年第13回現代短歌評論賞受賞。2002年度道銀芸術文化奨励賞受賞。北海道新聞日曜文芸欄に連載コラム「書棚から歌を」を連載中。

の菱川善夫先生が私の師です。先生は、福島さんの歌集の解説を書かれていて、札幌で短歌絶叫コンサートがあると、必ず福島さんにお会いしていた。じゃあ菱川先生と繋がれば、さらに福島さんと近付きになれると思い、卒業論文を菱川先生に見ていただきました。私は北海道大学の学生でしたが、北大には短歌の先生がいないので、「学園大学の先生に見てもらっ

てもいいよ」と許可を得、菱川先生の研究室に行つて「ご指導お願いします」と。そこから北海学園大学との関係ができたんです。一九九五年に現代短歌評論賞を受賞するまでは、短歌は趣味のレベルでした。菱川先生のお蔭で、偶然と縁が重なり、いろいろな人と繋がっていきました。自信を教える子に付けさせるというのが、恩師の偉大なところでしょうか。自己評価と他者評価についてもすごく違うんですよ。自分に自信がないところを先生が大丈夫と背中を押してくれ。短歌はいいところを褒めるだけでいいんです。

短歌

短歌をものすごく分かりやすく言うと、日本で一番手のかからない、お金のからない、癒しの道具。私は日本語話者のセイフティネットと言っています。日本語を話せる方なら、紙と鉛筆さえあれば作れるんです。俳句は季語辞典が必要でハードルが高い。でも短歌は辞典もいらぬ。皆さん敷居が高いと思つていらっしゃるんですが、短歌の約束事は五七七七だけ。それに当てはめていきます。どなたでも無理でできるし、型があった方が表現しやすいのです。

実は五七七七ってアートセラピーの一つにもなるんですよ。心が折れたときに、気持ちを短歌の形式に当てはめてみるとすっきりして、ストレス解消になります。短歌を作ると、自分の思いを言語化することになるので「自分がいま悩んでいるのは何だろう」と自己分析ができるんですよ。考えてみると、啄木にも鬱っぽい歌が(笑)。短歌はツールとして、非常に有用だと思います。会社の初任者研修などには絶対いいと思いますよ。

学生たち

学生たちはみんなすごく上手ですよ。コピーライターになったメン

バーもいます。広告代理店などに就職したい人が受講してくれるので、レベルが高い。頭の柔らかさが違うんですよ。いま全国各地の大学に学生短歌会があつて、大学対抗バトルなども行われています。ツイッターなどで、あつという間に全国の学生が結びつく。紙が要りません。リアルタイムで共有して、すぐ、歌を返信するんですよ。

北海道は人数こそ少ないのですが、先進性で言えばトップかもしれません。三月の大学短歌バトルで北大短歌会が優勝するなど、学生たちが非常に活躍しています。

短歌で辞世を

死ぬ前に辞世の歌を一首という感じで、短歌をやつてはいいがでしよう。いい辞世の歌が作れるまでは、なかなか死ねませんよ。

辞世の歌はいくつあつてもかまいません。家族宛とか友人宛とか分けていただいてもいいです。

短歌はノートに書くことがお薦めです。そして横書きではなく縦書きで。縦書きが重要なのは、歌いおさめるという言葉があるように、下に言葉の重心を置いて、そこでピタリと止めると秀歌に感じます。器械体操でも最後の着地が大事。そういうイメージですね。

ある日、知人に用があつて電話をすると、「ごめん、今、取り込んでるので、折り返し電話する」との返事。でも、何分経つてもかかって来ません。数時間後によくやく来ましたが、時間が経ちすぎ、用をなさなくなつてしまいました。

皆さんが「折り返し電話します」と言つたとき、その折り返しの長さはどのくらいでしょう？

「折り返し」に「だちに」と考え、間髪を容れず電話を入れるのが理想ですが、普通は五〜十分以内、まあ、長くても二十分以内ぐらいで電話をかけ直せる時に「折り返し」と言うと思うのですが、いかがでしょう。しかし最近では、「折り返し」と言いながら、なかなか電話がかかってこないことが多くなつていくような気がします。

お客さんから一番クレームの多いのが電話の応対だそうです。顔が見えないだけに、難しいのでしょう。普通に話していても、どうしても暗く聞こえたり、ぶつさらばうに聞こえたりしがちになるのが電話の怖さ。明るい感じで話すためには、笑顔でなければいけません。これを「笑声」というそうで、ニコリしながらしゃべることが肝心です。

相手にはこちらの姿など見えないはずの電話ですが、姿勢も大切です。

背筋をピンと伸ばし、前を向いて話しましょう。良くない姿勢でしゃべると、なぜか相手に、その姿勢の悪さが伝わるものです。

「ありがとございます」とお礼を言うときも、電話だからと手を抜かず、きちっと頭を下げて話すことが大事です。その姿勢から発せられる声の調子が、感謝の気持ちをリアルに伝えることになり、相手に誠意が届くのだそうですから、電話って油断なりませんね。

O W L I N F O R M A T I O N

——あの犬に会いたい

ワンワンワンッダフル!

9月5日(土)～10月21日(水) 9:30～17:00(入場は16:30まで)
北海道立三好好太郎美術館(札幌市中央区北2条西15丁目 TEL011-644-8901)
休館日/月曜日(祝日の場合は直後の平日)
観覧料/一般610(460)円、高大生360(250)円、小中生250(200)円
※()内は前売・10名以上の団体料金。ほか各種割引制度あり

犬は人類最初のペットともいわれ、3万年以上前から人間の隣で生活を営む身近な存在です。その姿は時代や地域を問わず、様々な美術作品に登場してきました。

札幌出身の天逝の画家・三好好太郎の初期作品の中にも、大きな白い犬が描かれたものがあることが知られています。今回の展覧会では、三好の描いた犬を出発点に、美術作品の中の犬の表現や文化誌を紹介。浮世絵から狛犬、明治の札幌、現代と幅広い美術作品に現れる犬。かわいくたのもしく、時にはちょっと不思議なワンちゃんたちが集まる楽しい展覧会となります。

残念ながら介助犬、盲導犬以外を連れての入場はできませんが、人々が愛し後世に残した犬の魅力をたっぷり楽しめます。館内ではあわせて〈猫〉〈飛ぶ蝶〉など、三好好太郎の代表作も展示。三好の目がとらえた、人の身近に暮らす生き物の姿をお楽しみいただけます。



なかいいい(ラケットをもつ少年と少女と犬とマール) 2013年

伝統を受け継ぐ手しごとのわざ

大切にしたい日本の手しごと展

—伝産協会と青山スクエア—
9月19日(土)～11月15日(日) 9:45～17:00
札幌芸術の森工芸館(札幌市南区芸術の森2丁目75 TEL011-591-0090)
休館日/11月9日(月)のみ
観覧無料

日本各地の歴史背景や風土から生まれた工芸品の中でも、「伝産法(伝統的工芸品産業の振興に関する法律)」に基づき国の指定を受けたものが「伝統的工芸品」と呼ばれます。2015年現在、北海道の「二風谷アットウシ」「二風谷イタ」など全国222品目が指定され、地域産業の振興に貢献しています。伝産協会(一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会)は、その推進と普及拡大のために設立され、2012年には総合展示販売施設「伝統工芸青山スクエア」が赤坂に移転し、リニューアルオープンしました。

本展では協会の紹介とともに、伝統工芸青山スクエアで扱われている全国の逸品から「大館曲げわっぱ」「本場大島紬」などの木工品・織物のほか、金工品や陶磁器など63品目約300点を展示、販売します。産地で百年以上継承され磨かれた手しごとが集うこの機会をぜひお見逃しなく。また常設展示ショップでは「大切にしたい札幌の手しごと」が同時開催されます。



おはなしと図鑑の新しい絵本

オビとタネ

ここにこZOO「トリとか」
ひだのかな代・え・ぶん
定価1,000円＋税

エフエム北海道で毎週日曜朝に放送中のラジオ番組「ここにこきゅ」から、おはなしと図鑑がひとつになった、親子で楽しめる絵本が生まれました!

オビタイガーサラマンダーの「オビ」とデンデムシの「タネ」が友達になるまでのおはなしと、ふたりが動物園に出かけて、飼育員さんとトリを見てまわる図鑑の2部構成。ひだのさんならではの生き物の特徴をとらえたイラストで、物語を楽しみながら、色々なトリの生態を学ぶことができます。



中西出版 B5判横、48頁
2015年8月刊行

北海道美術への想いを綴る

北の美のころ

奥岡茂雄・著
定価1,800円＋税

北海道の美術館黎明期から「北方の美」を見つめて42年。地域を拓く美術館づくりを掲げ、郷土ゆかりの美術作品を紹介してきた道内学芸員の第一人者が、作家や美術館、美へのその折々の想いを一冊にまとめた。

作家への真摯なまなざしや美術館へ向けた提言は、北海道の美術に長年寄り添ったからこそ。作品との密接な関わりから得た「ころ」を綴る、学芸員の視点から生まれた珠玉のエッセイです。



中西出版
四六判、298頁
2015年7月刊行

短歌から始まる読書案内

書棚から歌を

田中綾・著
定価1,400円＋税

書評家・歌人・大学教授として活躍する著者が編む、短歌で始まる異色のブックガイド。北海道新聞の日曜文芸欄で連載中のコラムから、若い人にも読んでほしい153冊が厳選されています。

著者の本棚から抜き出されたのは、日本の近代や戦時下の短歌史・評伝を中心とした、短歌が登場する著書。三十一文字を振りどころに、時代を生きた詠み人と、現代の若者たちが抱える「今」のつながりを考える一冊です。



深夜叢書社
新書判、334頁
2015年6月刊行

